

G I G Aスクール構想推進タスクフォース

中間報告書

令和3年11月15日

公益財団法人 e-とくしま推進財団

はじめに

昨年度に始まったG I G Aスクール構想により、小・中学校に一人一台タブレット型端末の配布が完了し、特に本県においては、全国に先駆け、県立高等学校・特別支援学校高等部などの、公立・私立学校に整備がなされております。

e-とくしま推進財団（以下「財団」という。）は、タブレット導入後の様々な課題に対して、学校現場の先生方と一緒に「タスクフォース」を立ち上げ、現場の状況をお聞きしながら、解決方策について検討を進めているところです。

現在、県内市町村の小・中学校を訪れ、(対象84校中、70校済み)

○学校におけるデジタル化推進支援のあり方について

○プログラミング教育における学習指導方法の確立について

を中心に、聞き取り調査を鋭意実施しているところであり、来年2月を目途に、課題の抽出とそれに対する解決策の最終報告を行う予定です。

現在までの聞き取りの結果、各学校におかれては、プログラミング教育の取り組みをはじめ、G I G Aスクール構想推進のため日々熱心に取り組んでおられています。

今回の中間報告については、特に、各学校ごとにネットワーク環境やサポート体制について様々な状況にあることがうかがえることから、予算措置が必要と思われる項目について、取りまとめたところであります。

是非、ご活用していただけますようお願いいたします。

■ネットワーク環境について

1. 現状

- ・ G I G Aスクール構想におけるネットワーク環境整備においては、普通教室環境における無線アクセスポイント（以下「Wi-Fi 環境」という。）の整備までとなっており、各自治体においては概ね普通教室への Wi-Fi 環境整備は完了している。
- ・ 実際にタブレットを活用した授業を行うにあたって、特別教室や体育館などに Wi-Fi 環境の整備ができていないため、学校現場では不便を強いられている。
- ・ 校内での接続がうまく出来たとしても、インターネットへのアクセスにて多数のタブレット接続を行った場合に、一部のタブレットが接続できない。または接続に数分の時間を要すなど、接続が不安定との意見も多くみられ授業に支障をきたしている。

2. 課題

- ・ 普通教室以外への Wi-Fi 環境が無い（特別教室、体育館、職員室 etc）
- ・ 教室における Wi-Fi 接続における不具合（数台繋がらない、教室後方がつながりにくい、天候によって電波状態が悪い（切れることもある））
- ・ 同時接続台数が多い場合における遅延（動画の閲覧において端末ごとで差異が出る（再生開始、閲覧時間など）、クラウド利用が主であるためインターネット接続時が要因と考えられる）

3. 解決策

- ・ 学校によっては、特別教室や体育館への Wi-Fi 環境の整備について、I C T教育推進の観点から計画的に進める必要があると考える。
（体育館は災害時の避難所に使用されることから、学校によっては、整備の要請が強いと思われる。）
- ・ 普通教室における接続不具合に対しては、Wi-Fi 環境の調査（検査）を行い電波のカバー範囲が影響する場合には Wi-Fi 環境の増設などが必要であると考ええる。
- ・ 動画データや Web ページなどをキャッシュ*1 できる仕組みを利用することで、比較的安価で整備が可能となる場合もあるので、整備の必要性について検討する必要があると考える。

*1：ブラウザが一度表示した Web ページ等のデータを保存しておき、次に同じページを表示する際、一度目より素早く表示してくれる仕組み

■サポート体制と対応状況について

1. 現状

(1) ICT支援員の配置状況

県内24市町村中、18市町村において配置済み（予定2含む）となっているが、採用にあたっての業務内容はバラバラであるため、教員が希望しているサポート（内容、回数など）ではない場合もあり、現場の反応も様々である。

(2) サポート体制

◆授業におけるサポート

- ・ICT支援員がいない場合、授業中において教員がICTの活用ばかりに目が向いてしまい、児童生徒が操作面でつまづいてしまった場合に、対応に追われ授業が停止してしまうことがある。
- ・現場からも「ICT支援員」が必要と言われ、授業のサポートに入ってもらいたいという声が挙がっている。ただICT支援員に望むことは、授業のサポートに限らず、授業の組み立て（ICTを活用した）なども一緒に考えていけると助かるという意見も見受けられる。
- ・徳島県内においては学校現場におけるICTを支援できる人材が不足していることも課題であり、GIGAスクール構想推進に支障をきたしている。

◆トラブルにおけるサポート

- ・各自治体によって様々であり、トラブル発生時の連絡先が明示されている場合は、現場での混乱は少ないが、明示されていない場合、情報担当教員の負荷にも繋がっている。

2. 課題

◆授業におけるサポートの課題

(ICT支援員がいない場合)

- ・授業におけるサポート体制が取れないため、必然とICTの活用が少なくなる
- ・情報担当教員の負荷が高い

(ICT支援員がいる場合)

- ・業務範囲が現場に通知されておらず、何をお願いできるのか不明
- ・必要としている時にいない（回数や対応時間が少ない、小学校は午後に必要）
- ・要望するスキルを持っていない（要員募集時に明確にされていないなど）

◆ICT支援のできる人員不足

- ・ICT支援員として対応できる人材が少ない
- ・地域によってはそもそも人材がいない

◆トラブルにおけるサポートの課題

- ・トラブル発生時のハード面、ソフト面等、切り分けの対応手順が明確でない
- ・現在トラブルが発生した場合には、情報担当教員又は教頭先生が連絡を実施しているが、専門的知識が必要とされることもあり、状況説明に時間を要し、また授業中などで不在の場合、連絡自体がおそくなる

3. 解決策

- ・ICT支援員が配置されていない学校においては、教員の負担軽減のためにも、授業実施や、授業準備段階など、サポートできる、ICT支援員の配置が必要であると考えます。
- ・ICT支援員が配置されている場合でも、学校によっては、人員が少ないなど、対応回数や対応時間などに限りがあり、人員の増加や作業内容を明確にし学校現場へ伝えることも必要であると考えます。
- ・人材不足に対する取り組みの一つとして、「とくしまデジタル人材育成プラットフォーム」*2にてICT人材の育成を図ることとしている。育成された人材を同プラットフォームの人材バンクへ登録し、学校現場等で活用していく予定である。
- ・タブレットを活用した授業を円滑に進めるためには、タブレットバッテリー交換も含めた保守費用の確保等について検討を進める必要があると考えます。

*2：徳島県、県内の産学官の関係団体及び財団の参画による本県の「デジタル人材育成拠点」として本年10月に設置（事務局：財団）

■その他

本年度が実質「GIGAスクール元年」として全国的に始まったが、運用において課題が山積している状態にあり、文部科学省においては、令和4年度概算要求に「GIGAスクール運営支援センター整備事業」を掲げております。

「GIGAスクール運営支援センター」

- 市区町村単位または、それを越えて”広域的”にICT運用を支援
- 専門性の高い技術的支援等を”安定的”に提供
- 故障時等はメーカー等と連携して支援

本県においても、本事業の活用について検討する必要がある。

まとめ

各市町村教育委員会におかれては、財政状況が非常に厳しい中ではあるが、「G I G Aスクール構想」の推進を図るサポート体制等の充実のため、当財団が示した解決策の予算化について検討をいただきたい。

なお、当財団においては、引き続き「G I G Aスクール構想推進タスクフォース」において、各学校からヒアリングをした事項について鋭意分析し、来年2月の「最終報告」に向け取り組んでいく。